

# コロナ禍の新日美特集号

# 回 会 報

172号

新日本美術協会

事務局

横浜市港南区港南台

1-39-5

鈴木忠義方

TEL 045-832-0504

編集委員

石原修

早田美智子

篠光定

湯澤朱美

原稿常時募集

次号令和3年2月予定

## 世紀の疫病に遭遇して

事業部長 永野 信



永野 信

昨年一二月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルスは、今なおパンデミックが続いている状況です。このような中で私たち新日美を運営する月例委員会は二月までは通常通り開催してきましたが三月以降はウイルス感染防止の規制により会議室の確保ができなくなり、定例総会の事業報告、会計報告等すべてメール、郵便による紙上審議、決済により処理してきました。

さらに九月下旬からの第四回新日美展開催については例年通り官庁関係の手続きを発生した新型コロナウイルスは、今なおパンデミックが続いている状況です。このような中で私たち新日美を運営する月例委員会は二月までは通常通り開催してきましたが三月以降はウイルス感染防止の規制により会議室の確保ができなくなり、定例総会の事業報告、会計報告等すべてメール、郵便による紙上審議、決済により処理してきました。

このコロナ感染の拡大は多くの芸術文化の活動、発表の場で起きてきて、遂に六本木の国立新美術館、上野の都美術館等を会場とする公募団体は四月以降多くが開催を辞退する状況となり、第四回新日美展も六月末に都美術館に辞退



届をしました。

今、私たちは支部展や選抜小品展も中止となり、対外交流も規制されて、絵画工芸の創作意欲も消失してしまわないかと痛感しているところですがこれを少しでも緩和し、会員の皆さんとのつながりを持ちたいとネットによる「私のこの一点」を企画した次第です。

芸術月刊誌「美術の窓」では九月号紙上でこの世紀の転換期に「美術団体展への思い」と題して七〇余人の著名画家、会長が語られています。我が新日美森屋代表の「：公募展とは美術館という素晴らしい場で多くの作品と共に展示され、大勢の来場者に観てもらえ、評価され、美術仲間と共に切磋琢磨できる、一番の勉強の場でもある。：」は会の運営上今後とも変わらぬ真髓であると思います。

## ネット会員展受付を終えて

WEB担当 土屋 政夫

世の情勢で、ことごとく展覧会が中止を余儀なくされ、発表の場を失った作家の心情はとても辛いものです。気持ちを解き放ち制作活動のモチベーションを維持する策はないかと考えたのがネット会員展です。

人気投票やコメント投稿が出来る参加型の展示がいいなと思い、それらを実現するプラグインプログラムを探しましたが米国製しか見当たりませんでした。不得手な英語を翻訳しつつホームページに組み込みました。

あれこれ良かれと思ったアイデアを入れ会員の皆様へ展開する段で都合な点を指摘され、構想の練り直しをする事になりました。時に気持ち折れそうになりましたが、今は開催して良かったと感じています。

応募する方も初めてで不慣れなのに多くの参加を得られました。応募内容を整理しながらコメントを読ませて頂きました。様々な考えや思いがある事に気付かされました。会員の違った側面を伺い知ることができ当初の目的の一つが叶いました。応募時に同封されてきた何枚ものお礼や励ましのお手紙を頂戴し感激しています。

初めての試みで至らない点がありましたが、皆様のご協力のお陰で何とか乗り越えることが出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。